

○ 田代親愛なる町村諸君に訴え

今回の争議が去る九日夜の龍巣駆逐事件に誘發されたものたる事は先に吾等の立場を鮮明すると共に諸君の賢慮によへた所であります。

然るに由来劣なる鉱業所当事者は去る廿日附を以て長文の声明書を發し事實を偽り謹密の言を主張して諸君の賢明を覆ふんとするのであります。即ち口に謹慎反省の色なく徹頭徹尾組合側並勧業側並勧業者に對する惡罵侮蔑に充たされてゐる。諸君に對する迷惑を遺憾として自己の不徳を謝すと補し乍ら全文を通じて一矢を發す。彼等は一事件の真因、二、面會強要に應ぜざる理由、三、無理罷業の敢行、四、要求條件に對する當所の態度、五、別子に於ける労働運動の傾向、の五項旨を並べ、虚偽の言を以て自己の非難を退ふせんとするのであります。吾等は全文を通じて唯會社当事者の奸智に長けた「ハリタツヒトヨリ出でまひ」を一々反駁する大人氣なきを感じるのであります。彼等が何故に斯の如き言辭を弄してかは自己の非難を續ひ、労働者側を罵るのであるが某處に會社側の童心を禦美が存するのを見逃す事出来ないのであります。吾等は彼等の声明書を反駁する代りに其重大なる利害を指摘して諸君の注意を喚起して思ふ所です。然るに其重大なる鉛害土毒何等性は即ち日日被覆せらるる大なる影響者があるのです。然るに其重大なる鉛害土毒何等性は即ち日日被覆せらるる大なる影響者があるのです。

元末毎年十二月より翌年三月頃まで耕作地出稼地と稱して且取高稟の出稼を覺るのですが、これは精鍛と農作物の關係で此點開拓農業等の煙草三種類など少々之が故に被覆したが故に急いであります。四月頃から春の穀物栽培を終り夏の穀物栽培が坐り續き耕作の時期に入りますが、農作物の煙害害害を甚しく一季と半のコドモ半の耕作地を加減して被覆され少々せなけれ風水引吉山山あります。然るに今回の争議發生以來會社当事者は自己のツマラナリ體體的關係を満足せず、益々連絡函數を減じて世間体を以て四年半居てゐる所です。遂に被覆を間体を以て少しあつて居りますが何等かの争議發生以後も又鉱業と運搬の荷車の回数一日二回減じ鉱石組合士加入より居りますが故に前記の如く出鉱量の激減を見て居る所です。而して毎月午後四時端出揚發の列車の如きは僅かに貨車三通しか連結してせなかつたのである。尚坑内に於ては最初が過剰な煙害害害では手ノ数の労働者か手さば力労働者以上で現れて如何に鉱業所が口ヲ理工かるか判らずはあらずせんかこの自己の弱点をかかして而して夏期にてて煙害被覆を例年の如く、コマカサンとする腹黒い奸業の伏線としてああ上生事例書を簽しておあります。

諸君の以前の簡單なうる吾等の言葉を何うぞ取り半ばうか知らぬが農家の諸君は未春以後に於ける自己の農作物に對する煙害古克分子監視されなかれば秋常なら迷惑を蒙る所れど亦勞り主の五月中に事例發生以来諸君や吾等は寄せられた好意に對して會社の術策を曝露し諸君の注意を喚起する義務を感じる。共に鉱業所の煙害の聲明書用が斯うして會社の弱味立力カサンため士出されをもつてあると云ふ事は諸君に知つて貰ひ度、此處此處声明書を簽する所以である。

大正十四年十二月二十四日

日本農夫組合 別子山鐵山支部